

# 性的指向と性自認のあり方を社会調査でいかに捉えるか

## ——大阪市民調査に向けた準備調査における項目の検討と本調査の結果——

国立社会保障・人口問題研究所 釜野さおり

### 【1. 目的】

性的指向・性自認のあり方（以下、SOGI）別の人口割合を知るためには、悉皆調査か確率標本抽出調査で対象者の SOGI をたずねて推定する必要がある。一般市民を対象とした調査では対象者の認識や知識が必ずしも十分でないため、SOGI を捉える設問を綿密に検討することが不可欠である。本報告では社会調査で SOGI をたずねる項目を検討するために行った試験調査の概要を紹介し、上記を経て採用した項目を含めて実施した「大阪市民の働き方と暮らしの多様性と共生にかんするアンケート」（以下、大阪市民調査）の当該箇所の集計結果を示す。

### 【2. 方法】

SOGI 項目の検討にあたっては、アメリカやイギリスにおける専門家委員会等が行った試験調査やその結果として提示されたガイドライン、日本の当事者向けの調査で用いられた項目等を参考にし、試験調査を設計した。性的指向のアイデンティティの項目では、選択肢の順番や用語説明の有無を変えたものを候補とした。性自認の項目では、出生時の性別と現在自認する性別をたずねる方法と、間に「出生時の性別と同じか否か」を追加でたずねる方法、トランスジェンダー、MTF、FTM 等の選択肢から選ぶ問い等を候補とし、試験調査票を作成した。フォーカス・グループ・ディスカッションおよびメールによる調査によって、性的マイノリティとそうでない人たちの意見を集めて内容を検討し、適切な項目を決定した。大阪市民調査ではこれらの SOGI 項目を含めた調査票を用いて、同市の 18～59 歳の住民を母集団とし、住民基本台帳から無作為抽出した 15,000 人を対象に、2019 年 1～2 月にかけて郵送法によって実施した。

### 【3. 結果】

SOGI 項目の検討の結果、性的指向の選択肢には「1 異性愛者、すなわちゲイ・レズビアン等ではない [異性のみに性愛感情を抱く人]」、「2 ゲイ・レズビアン・同性愛者 [同性のみに性愛感情を抱く人]」、「3 バイセクシュアル・両性愛者 [男女どちらにも性愛感情を抱く人]」、「4 アセクシュアル・無性愛者 [誰に対しても性愛感情を抱かない人]」、「5 決めたくない・決めていない」、「6 質問の意味がわからない」を採用した。性自認のあり方については、出生時の性別に次いで、「あなたは今のご自分の性別を、出生時の性別と同じだととらえていますか」とたずね、「1 出生時の性別と同じ」以外の「2 別の性別だととらえている」や「3 違和感がある」を選んだ場合に現在の認識をたずねる問い（選択肢： 1 男 2 女 3 その他（具体的に））を用いた。大阪市民調査では 4,285 の有効回答があり（回収率 28.6%）、31 人 (0.7%) が「ゲイ・レズビアン・同性愛者」、62 人 (1.4%) が「バイセクシュアル・両性愛者」、33 人 (0.8%) が「アセクシュアル・無性愛者」、222 人 (5.2%) 「決めたくない・決めていない」と答えた。現在自認する性別が、出生時とは別の性別または「その他」の人は 32 人 (0.7%) であった。

### 【4. 結論】

性的指向については「異性愛者」の選択肢を一番上とし、簡単な説明のある項目が、性自認については出生時の性別と同じかという問いを含めた 3 問セットが、回答しやすいとされた。大阪市において無作為抽出で調査を行った結果、これらの SOGI 項目の無回答率は他の項目とほぼ同等であった。

※本報告は JSPS 科研費 16H03709「性的指向と性自認の人口学—日本における研究基盤の構築」の成果の一部である。